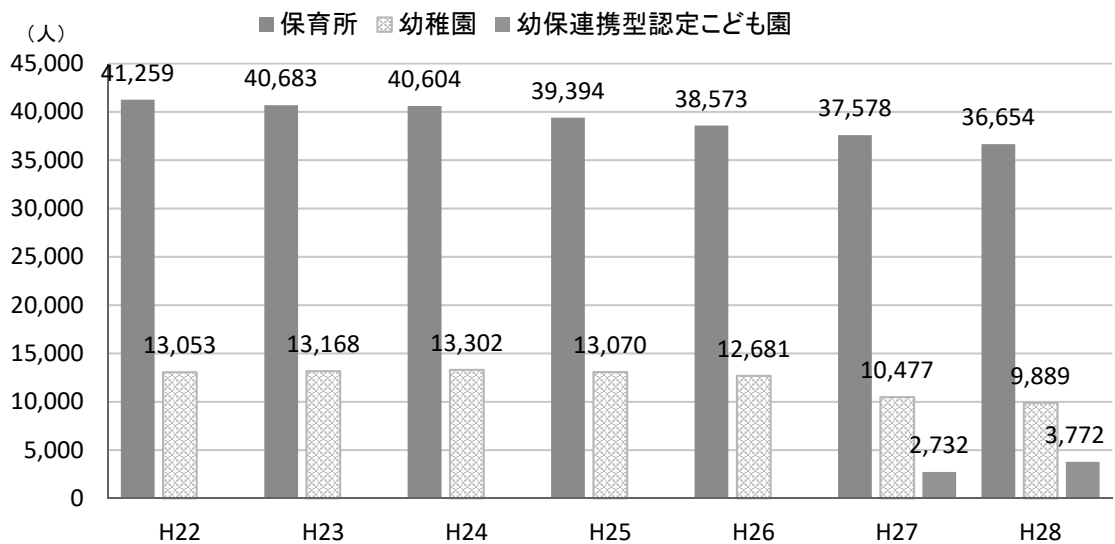


### (3) 幼児教育・保育の充実

#### 現状と課題

- 近年、幼児が身近な環境に主体的に関わり、試行錯誤したり、考えたりする中で、生涯にわたる人格形成の基礎を培うとされる、幼児教育・保育の重要性への認識が高まっています。
- 幼稚園教諭、保育士、保育教諭、また国公立、私立と様々な実施主体によって研修が多様化しており、すべての就学前児童が質の高い幼児教育・保育を受けられるようにするための体制整備等が求められています。
- 本県の豊かな自然環境や多様な地域資源を活用した屋外を中心とする体験活動を行う幼児教育・保育団体を県が独自の基準で認定する信州やまほいく（信州型自然保育）の認定園数は、市町村及び幼児教育・保育関係団体の理解を得、順調に増加しています。（H29. 10. 27 現在認定園数 152 園）
- 幼稚園、保育所及び認定こども園等から小学校、さらに中学校、高等学校等へと大きな見通しを持って教育が円滑に接続されるよう、関係機関の連携を強化し、子どもたちの発達や学びの連続性を保障する必要があります。
- 少子化、核家族化等により、子育てが孤立化し、子育てに不安を抱いている保護者が多くなっています。

図3-（3） 幼稚園の在園者数及び保育所の入所児童数（3歳・4歳以上）



文部科学省「学校基本調査」、厚生労働省「福祉行政報告例」

### 目指す成果

- ◆ すべての就学前児童が質の高い幼児教育・保育を受けることができるよう、それを支える人材を育成します。
- ◆ すべての子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえ、幼保小・福祉等関係機関との連携を強化します。

### 主な施策の展開

幼児教育・保育を充実するために、次のような取組を進めます。

#### ① 幼稚園、保育所、認定こども園等における教育・保育の充実

- 長野県における幼児教育・保育の目指す姿、幼児教育・保育の内容や幼児教育・保育の振興を支える体制づくりなどを示した基本方針「長野県幼児教育振興基本方針（仮称）」を策定し、子どもたちの健やかな育ちと家庭の教育力向上を図ります。
- すべての学びの基盤となる幼児教育・保育の充実を目指し、幼児教育支援センター（仮称）の設置を検討します。
- 地域の実情に応じた研修や広域的な研修、専門研修等の充実により、幼稚園教諭や保育士等の経験・職能に応じた専門性の向上を目指します。
- 豊かな自然環境や多様な地域文化を活かした屋外体験活動を通じて、幼児期の子どもたちの自己肯定感や豊かな感性等を育む信州やまほいく（信州型自然保育）を推進します。
- 長野県版運動プログラムの提供等による子どもたちの運動遊びの推進や地域の自然や文化を活用した体験活動の推進、異年齢児等との交流による人と関わる体験等の充実を図ります。

#### ② 幼保小の連携強化

- 子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園・保育所・認定こども園等と小学校との連携を進め、幼保小間での子どもたち同士の交流や教員、保育士による相互参観、合同研修会等に取り組みます。
- 福祉・医療等の関係機関と連携して、早期からの切れ目のない教育相談・支援体制の充実を図ります。

#### ③ 子ども・子育て支援策への取組

- 幼児期の教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進する「子ども・子育て支援新制度」が円滑、着実に実施され、子どもの利益が最優先されるよう取り組みます。
- 子育てに不安を抱く保護者を地域で支えていけるよう、支援が必要な幼児と家庭への支援の充実に取り組みます。



身近な自然に親しむ園児



園児と小学生の交流活動

成果指標

成果指標項目	現 状	目 標	備 考
幼保小合同研修会の実施率	38.8% (2016年度)	50.0% (2022年度)	教学指導課「学校経営概要のまとめ一小・中学校編」

※ 目標の年次は、本計画の最終年度の実績を評価する2023年度に把握できるものとしています。

参考指標（施策実施にあたって参考とするエビデンス）

参考指標項目	現 状	分析の視点	備 考
幼児と児童の交流会を実施する小学校の割合	98.3% (2016年度)	交流会を実施する小学校の割合が増加していくこと	教学指導課「学校経営概要のまとめ一小・中学校編」
信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度認定数	152園 (2017.10)	信州型自然保育の県内普及の程度の測定	次世代サポート課調べ

## 特色ある取組 「生きる力」を育む 信州やまほいく（信州型自然保育）

長野県では、豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの“人生の根っこ”を育む信州やまほいく（信州型自然保育）の普及を推進しています。

「信州やまほいく」とは、信州の豊かな自然環境や多様な地域資源（地域の伝統文化、食文化等）を活用した様々な体験活動を積極的に取り入れる保育、幼児教育をいいます。

県では、平成27年度に全国に先駆けて「信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度」を創設し、県が独自に定めた基準により自然保育を行う保育所・幼稚園・認可外保育施設等を認定し、支援を行っています。



信州やまほいく

平成29年度末の認定園数は152園（※県内の保育・幼児教育施設の約2割）。うち、自然保育に重点的に取り組む「特化型認定園」が10園、他のプログラムと合せて自然保育にも積極的に取り組む「普及型認定園」が142園となっています。

自然体験や生活体験が豊富な子どもほど、自己肯定感や創造力、社会性などの「非認知的能力」が高まる傾向にあるという研究もあり、県では、長野県で育つ子どもが将来にわたって必要な「生きる力」を育めるよう、自然保育の普及を推進しています。